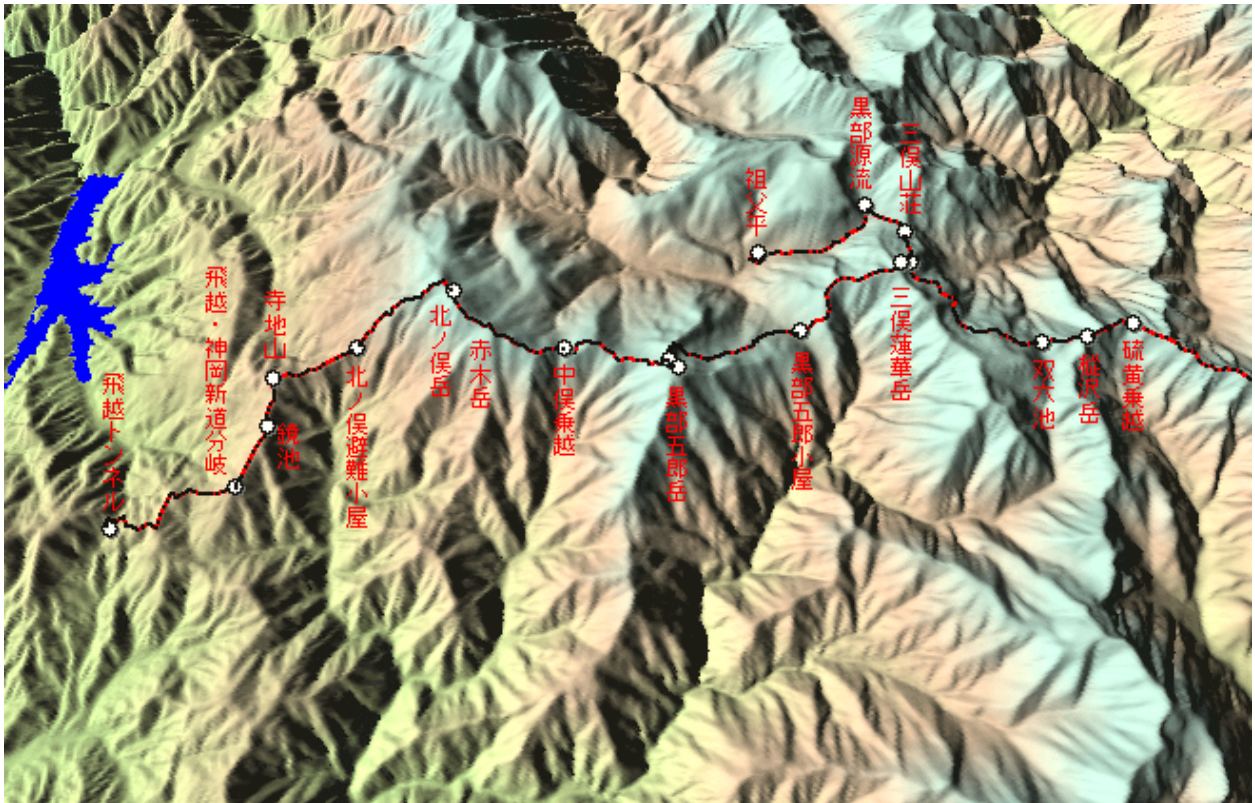


2001 北アルプス縦走山行報告

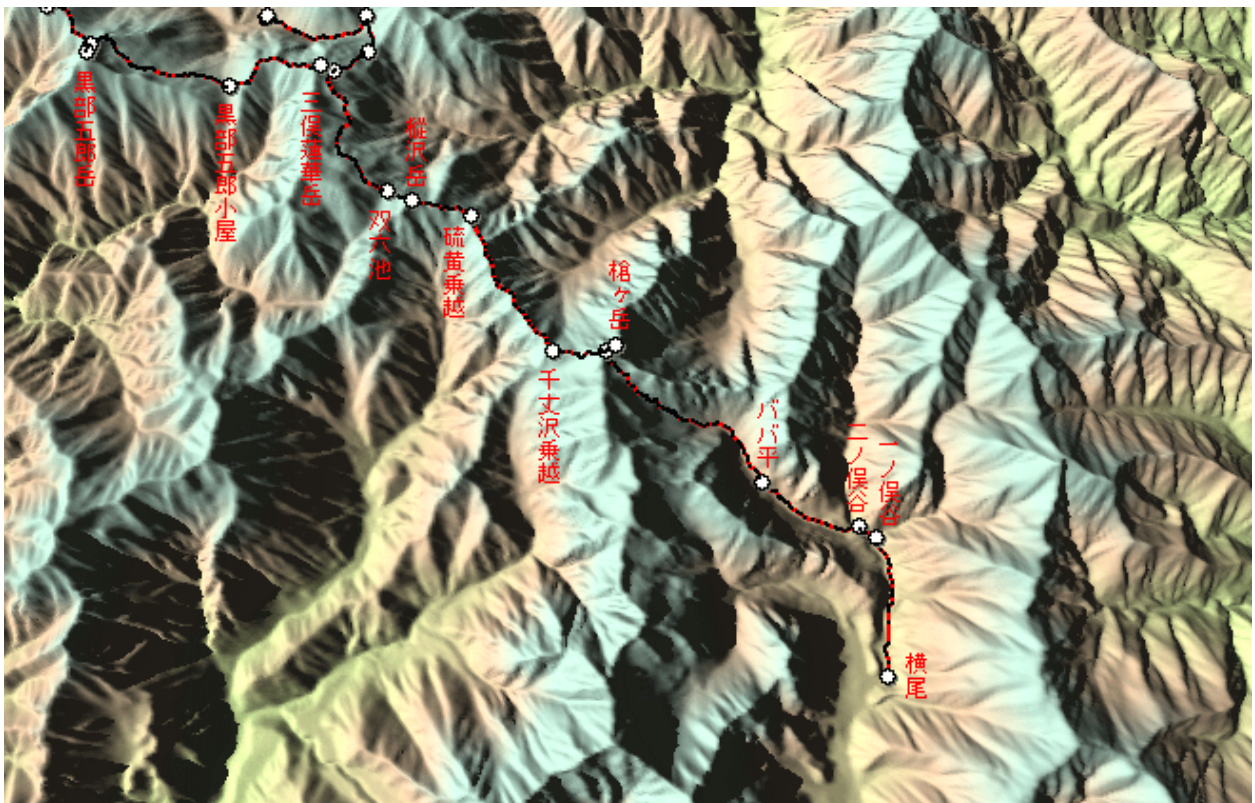
日時	2001 / 08 / 09 ~ 08 / 16
山行形態	幕営単独山行
コース	08/09 大阪 = (急行きたぐに) = 08/10 富山 = (高山線) = 猪谷 = (神岡鉄道) = 奥飛騨温泉口 = (taxi) = 飛越トンネル - 神岡新道分岐 - 寺地山 - 北の俣避難小屋 08/11 北の俣避難小屋 - 北の俣岳 - 赤木岳 - 中俣乗越 - 黒部五郎岳 - (カール道) - 黒部五郎キャンプサイト 08/12 黒部五郎キャンプサイト沈殿 08/13 黒部五郎キャンプサイト - 黒部乗越 - 三俣蓮華岳 - 鷲羽乗越 08/14 鷲羽乗越 - 黒部源流指標 - (黒部源流遡行) - 祖父平 - 鷲羽乗越 - (巻道ルート) - 双六池 08/15 双六池 - 樅沢岳 - (西鎌尾根) - 槍ヶ岳 - (槍沢) - ババ平 08/16 ババ平 - 横尾 - 徳沢 - 明神 - 上高地バスターミナル - (急行バス) - 高山 - (特急ひだ) - 大阪

ルートマップ

この画像は国土地理院発行の数値地図・50mメッシュ（標高）日本 をKashmir3Dを用いて3D化したものです。



< Figure > Route Map_1



< Figure > Route Map_2

山行詳細

- 08/09 23:26 <アクセス> 急行きたぐに乗車
- 08/10 04:55 <アクセス> 富山着
<エピソード>
いまから高山線猪谷駅まで行かなければならない。同行者がいるかと思えば、殆ど全部の人が富山駅を出る。ションボリ!!
- 06:03 <アクセス> 富山発(高山線普通)
乗車する人少々。鉄道マニア多し。
- 06:56 <アクセス> 猪谷着
ここまで一緒に乗っていたのは鉄道マニアのみ。
- 06:58 猪谷発(神岡鉄道)
<アクセス>
とうとう一人。ワンマン、1両編成。囲炉裏というか、角火鉢というか、そのようなものが電車の一部にある。熱源は電気。それなりに風情があっていい。料金後払い。始発の猪谷から終点の奥飛騨温泉口まで480円。車中で朝食。
- 07:29 神岡鉄道・奥飛騨温泉口着
<アクセス>
駅前にタクシーが待っていた。一人に哀れみを覚えたのか、飛越トンネルまで10,000円にまけてくれた。約1時間。
- 08:45 飛越トンネル発
<気象>
曇天。今にも雨が降りそう。
<ルート>
飛越新道は、本当に新道。植物の根元を踏んで歩くこと多し。地図には急登とあるが、ごく普通の登り。途中から高圧線を目標に歩く。
- 09:15 Y字鉄塔
<ルート>
1999年版エアリア「剣・立山」でコースタイム丸印のあるところ。独特の形の鉄塔。行動食をとる。このルート、最初から最後まで(飛越トンネルから北の俣岳の稜線に出るまで)ぬかるみ道。「水の平」とはよくぞ名づけた。ぬかるみが本格化する中、神岡新道の分岐にいたる。大きな芭蕉がそこそこにある。
- 10:45 神岡新道分岐
<ルート>
道の真ん中にある芭蕉とぬかるみを障害物に見立ててスラローム走行とチャレしてみる。鏡池は直径1m強の小さな池。この頃より雨がちらつき始める。小止みを利用して昼食をとる。
- 11:45 寺地山
<展望>
寺地山までは曇っていたことを差し引いても展望は望めない。寺地山山頂も樹林の中。展望は360度不良。
<ルート>
寺地山を下ったところでカップを着る。ぬかるみが一層悪化する。

- 木道が現れたところが北の俣避難小屋分岐点。木道を避難小屋へとる。
- 13:00 北の俣岳避難小屋
<山小屋>
先客2名。水は小屋の前に引かれている。タンクの中には誰が用意したものかウーロン茶やジュースがある。無料。カンパ用の貯金箱でもあればと思い探したが、徒労に終わる。情報では、運がよければビールまであるとか。小屋の中はアルミ蒸着シートが全面に敷かれていて極めて清潔。テントの設営場所は1箇所のみ。小屋の出入り口から見える北の俣岳方向の景色も雰囲気がある。慶応高校の学生12名が宿泊したデータあり。ここに置かれているノートの表紙には打保発神岡行きのバス時刻も記してあった。
- 15:00 就寝
- 08/11 05:30 北の俣岳避難小屋出発。
<展望・ルート>
分岐点の木道を北の俣岳に向かう。木道終点で朝食。寺地山への稜線に雲が流れるようになり、黒部五郎岳のピラミダルな山容共々美しい。およそ30分の大休止後出発。神岡新道上部は池塘の美しさに特徴がある。他の人にも奨めたいルートではあるが、雨天のときはぬかるんでどうにもならない。ぬかるみは2400m上部で緩和される。それまでは、従前のルートは溝となり(雨天のときは急流になる)現在歩かれているルートの路肩は崩れやすい。途中で一度、太郎からのルートが至近距離に見えるが、ここからが意外と長い。
<気象>
半日は晴れそうである。
- 08:30 北の俣岳山頂
<ルート・展望>
ここまで意外と長かった。少しのんびりする。黒部五郎岳、薬師岳、遠く剣岳が見える。雲間に槍ヶ岳も覗く。
<気象>
今日まで雨のつもりでいただけにホットする反面、雲の流れは前線が南に下がったことを示している。太平洋と大陸の高気圧にはさまれ日本上空に前線がかかっていた。この前線が南に動いて今日は晴れ。明日は太平洋高気圧が押し返して雨。天候が回復するのは明後日以後、そう予想する。
- 08:50 北の俣岳発
<ルート>
通いなれた道を歩む。チングルマを愛でながら。30分弱で赤木岳。赤木～中俣乗越間には小ピークが2つある。最初の小ピークまで歩いて休憩。
- 09:30 赤木～中俣乗越間の最初の小ピーク
<展望>
2つ目の小ピークを越え中俣乗越。皆休んでいる。横目で眺めて先に進む。ここのチングルマはいつも楽しませてくれる。

- 12 : 00 黒部五郎の肩
<ルート>
 山頂をピストン。ガスがかかった。天候が良ければ尾根道を使うのだが。高山植物を愛でることにしてカール道と決定。
- 12 : 35 黒部五郎の肩発
<ルート>
 カールの底で水を補給。ついでにコーヒーを飲む。五郎のカールはコバイケイソウの群落で有名であるが、花は去年、今年共に不作である。意外と知られていないのだが、コバイケイソウは2～3年に一度しか花をつけない。来年は期待できそうである。五郎沢左保はオンタデ、ミヤマキンポウゲ等色美しく咲いていた。去年に比べ秋が早い。オオヒョウタンボク等すでに散っている。ハクサンフウロに迎えられ、五郎のキャンプサイトに到着。
- 14 : 20 黒部五郎キャンプサイト
<山小屋>
 お土産の小物入れを記念に購入。
<気象>
 この日夕刻より雨。
- 08/12 終日 黒部五郎キャンプサイト沈殿
 朝よりずーと雨。だんだん小雨になってきたので動けなくも無いのだが、沈殿を決め込む。午後より雨が上がってきたので五郎平の花を写真に撮る。
- 08/13 05 : 00 黒部五郎キャンプサイト発
<ルート>
 三俣蓮華岳への急峻な登り。登りの途中で多少見晴らしのいいところに出る。黒部五郎岳が美しい。2661 mで皆休憩しているが、騒がしいので黒部乗越にエスケープ。本日快晴。
- 06 : 50 黒部乗越
<ルート>
 後一息と思う分ここからが意外と長い。後ろを振り返り、黒部五郎岳、薬師岳を眺めつつ三俣蓮華岳の広大な頂上に至る。
- 07 : 20 三俣蓮華岳山頂着
<エピソード>
 苦節30年、いままで全て迂回してきた三俣蓮華岳の頂を踏んだ。延々2時間の大休止。展望を十分に楽しむ。
- 09 : 40 三俣蓮華岳山頂発
<エピソード>
 去年は靴のソールが剥離しそうになり、快晴満月の深夜、荘厳な三俣蓮華岳に感激しつつ一気に新穂高に下った道を、今年はノンビリと逆に歩く。雪溪の傍にしようかとテン場の選択に迷ったが、小屋近くにする。
- 10 : 30 三俣山荘
<エピソード>
 これまでレトルト食品ばかりだったので、ここでは金で勝負。三俣

山荘の展望レストランで昼・夕の2食を取る。

<展望>

久しぶりに鷲羽乗越周辺を散策する。黒部川源流地標の少し上部に白花のトリカブトが咲いていた。初めて見る。白花種はなかなか幻想的。

<気象>

1時頃より槍ヶ岳～笠が岳にかけて雲がかかり、雷も聞こえる。およそ一時間程度で上がり、3時ごろより夕立の様子。三俣周辺には夕立ナシ。

08/14 05:00

三俣山荘発

<ルート>

祖父平に向かう。黒部川源流地標で黒部川を渡らずに左に折れる。踏み跡に従って沢に入る。これから先は簡単な沢歩き。右岸通し。途中で沢屋のパーティーに出会う。東沢 谷から黒部源流のルートという。特に濡れるところもない。今年の黒部川は雪が少ない。去年4箇所残っていたスノーブリッジも今年は一つもなし。水位は並。1時間30分程度で祖父平。沢靴があれば川の中をジャブジャブやれるのだが、買って間なしの高級登山靴ではそうはいかない。適当に高巻いて行く。

<展望>

いつ来ても祖父平は良い。樹間を抜けてくる朝日の美しさは格別である。

<東沢谷の情報>

東沢谷も上流部が土砂で埋まったのだが、沢屋の話によると随分回復しているとの事である。レベルは黒部源流部同等。

09:00

三俣キャンプサイト着。

朝露に濡れたテントも乾いた。

10:30

三俣キャンプサイト発。双六池へ。

13:20

双六池着

<山小屋>

ケーキセットが700円に値上げされている。ケーキも少し小さくなった。まあいいか...。テン場届を出す。住所氏名一切不要。事故等の問い合わせにはどのように対応するのだろうか。疑問に思う。

<気象>

15:00から雨。昨日三俣で降らなかった雨がここでは降る。深夜、目がさめ星を見る。満天の星。星の中に空がある。

<藤原岳・霊仙岳の情報>

隣が三重の方、鈴鹿の話になる。「花の藤原と呼ばれるが...」の質問に対して、「たいしたことはない」と切り返される。花が見たいのなら、お勧めは霊仙西南尾根。福寿草がいいという。ゴールドエンウィーク前がいいのだとか。とはいうものの、車のない者には辛い。昔は河内風穴までバスがあったのだが。

08/15 05:30

槍ヶ岳に向け出発。

- 06:20 縦沢岳山頂
<ルート・展望>
ご来光見物の人多し。縦沢はここからが楽しい。下りの道を回り込んで行くと、ミネウスユキソウの大群落がある。斜面一帯ミネウスユキソウであり、その間を登山道がぶち抜いている。残念ながら西斜面、朝日に輝くウスユキソウとはいかない。因みに、北アルプスに咲くウスユキソウは全てミネウスユキソウとっていて間違いはない。日本におけるウスユキソウの分布は面白く、一山系一品種と言って過言でないのだから。斜面を回り込み朝日のあたる斜面にはタカネナデシコが咲いているが、朝露に濡れたタカネナデシコの姿はいただけない。まるで柳の下の幽霊である。
- 09:30 西鎌尾根取り付き
<エピソード>
あちらこちらで大休止を取っていたら、一時間近くロスが出た。西鎌尾根最後の登りにかかる。後3分というところで着かず離れずの先行者が休憩を取る。槍ヶ岳山荘の崖下である。一声掛けて先行する。
- 10:30 槍ヶ岳の肩。
<気象>
蝶・常念にすでに怪しい雲がある。今日も、槍ヶ岳は13:00～14:00まで雷。15:00～雨と予想される。多分今日も雷は激しいだろう。雷がかなわない。南岳への縦走をあきらめ、ババ平に下ることにする。
<エピソード>
一応登頂。時間確認せず。下り、危なっかしいおじさんにハラハラする。危なっかしい人に限って途中でカメラを出す。ヤメテクレー
- 11:30 槍ヶ岳発
<エピソード>
槍沢の途中で外人女性の単独行に出会う。イギリス人とのこと。「私日本語少し」なんだそうだ。
- 14:30 ババ平
<エピソード>
とにかく雨に遭わずにテントが張れた。水場に行くと高校生が大騒ぎしながらホットケーキを作っていた。
- 08/16 06:00 テント撤収。
06:30 水場。
<エピソード>
ホットケーキのできをたずねる。暫く間があった後、「マアマアでした。」
- 07:30 **<エピソード>**
槍平小屋の前でアルバイトの可愛い女性に会った後、今度は朝の素敵な風景に出会う。朝の斜光に朝露の雫が落ちる。霧が僅かに懸かっていればもっと良い。槍平小屋を30分下る間に2箇所素敵な風景を見せてくれる場所がある。朝の斜光が条件であるが。横尾の橋

はいただけない。どうしてこのような殺風景なものを作るのか。もう少し自然に溶け込むように作れ。そう叫びたくなる。

10:45

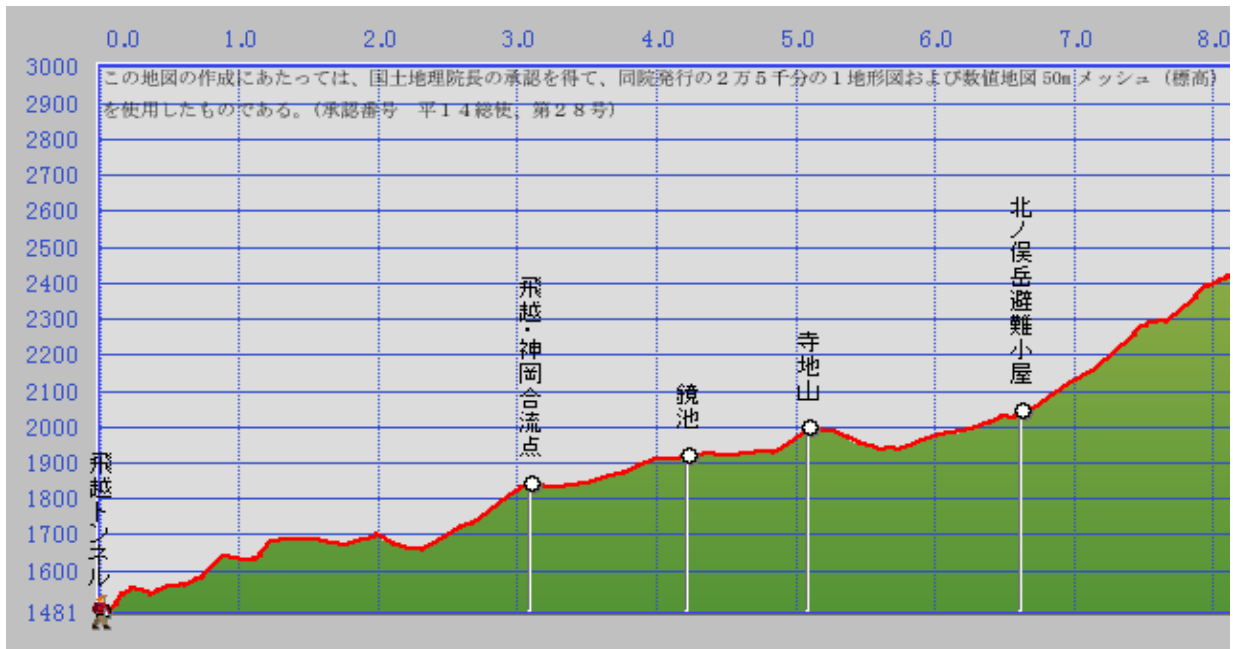
上高地バスターミナル。

<エピソード>

横尾からバスターミナルに向かう。途中で、高校生ぐらいの女の子に腕を支えられた、あまり光を感じないであろうお婆さんに出会う。山における過去の人との出会いをまとめ、朝日新聞に投書する。8月27日の「声」に掲載される。初投稿初掲載。掲載率10割。「イチローの打率より凄い」と言ったら、「規定打席数に足りていない」と反論された。

ルート断面図

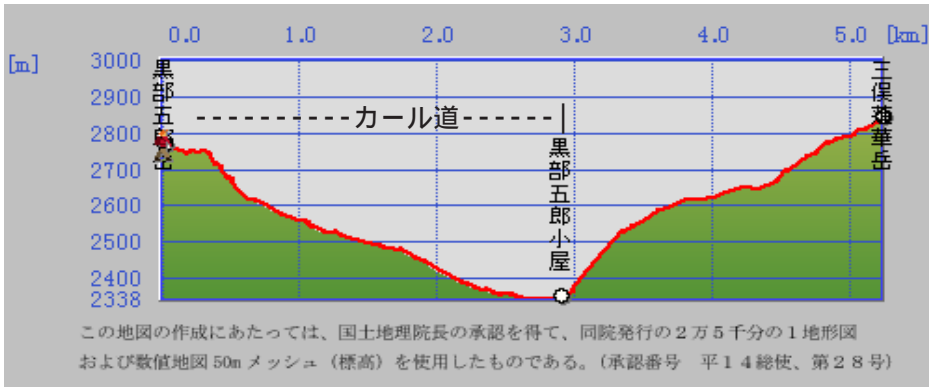
飛越トンネル-黒部五郎岳（1）



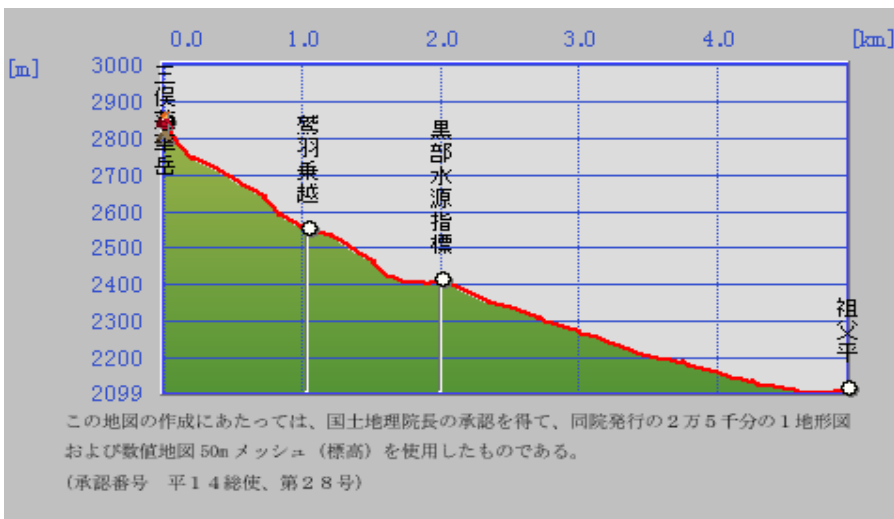
飛越トンネル-黒部五郎岳（2）



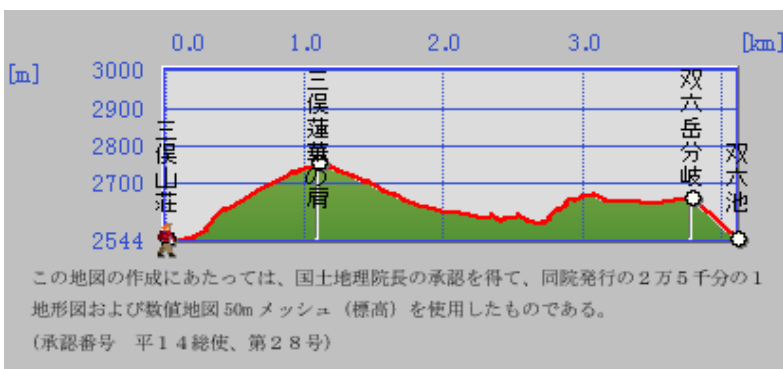
黒部五郎岳-三俣蓮華岳



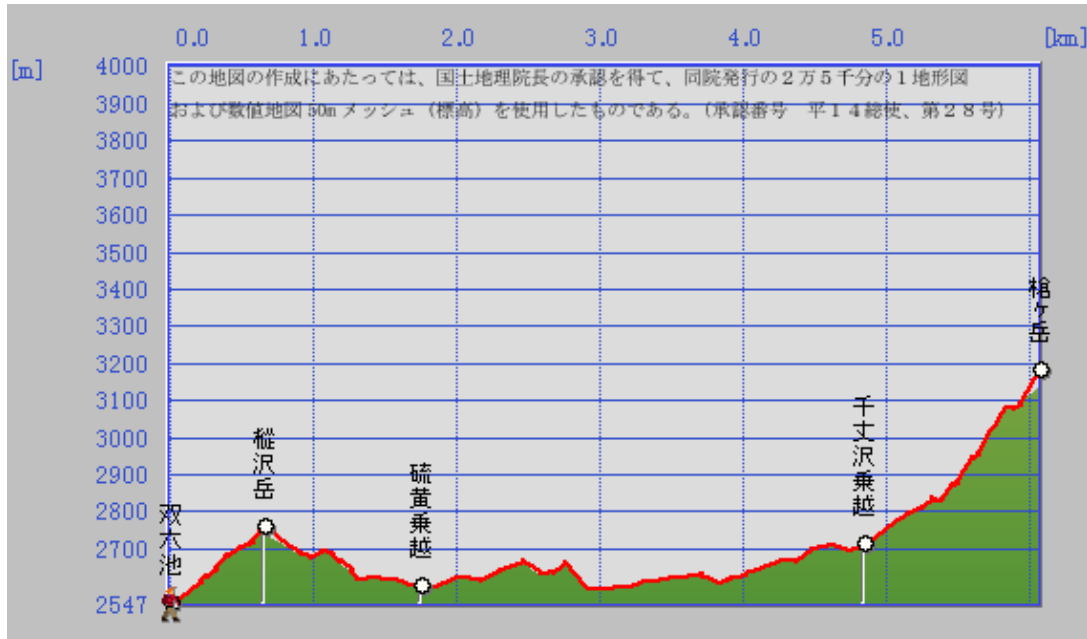
三俣蓮華岳-祖父平



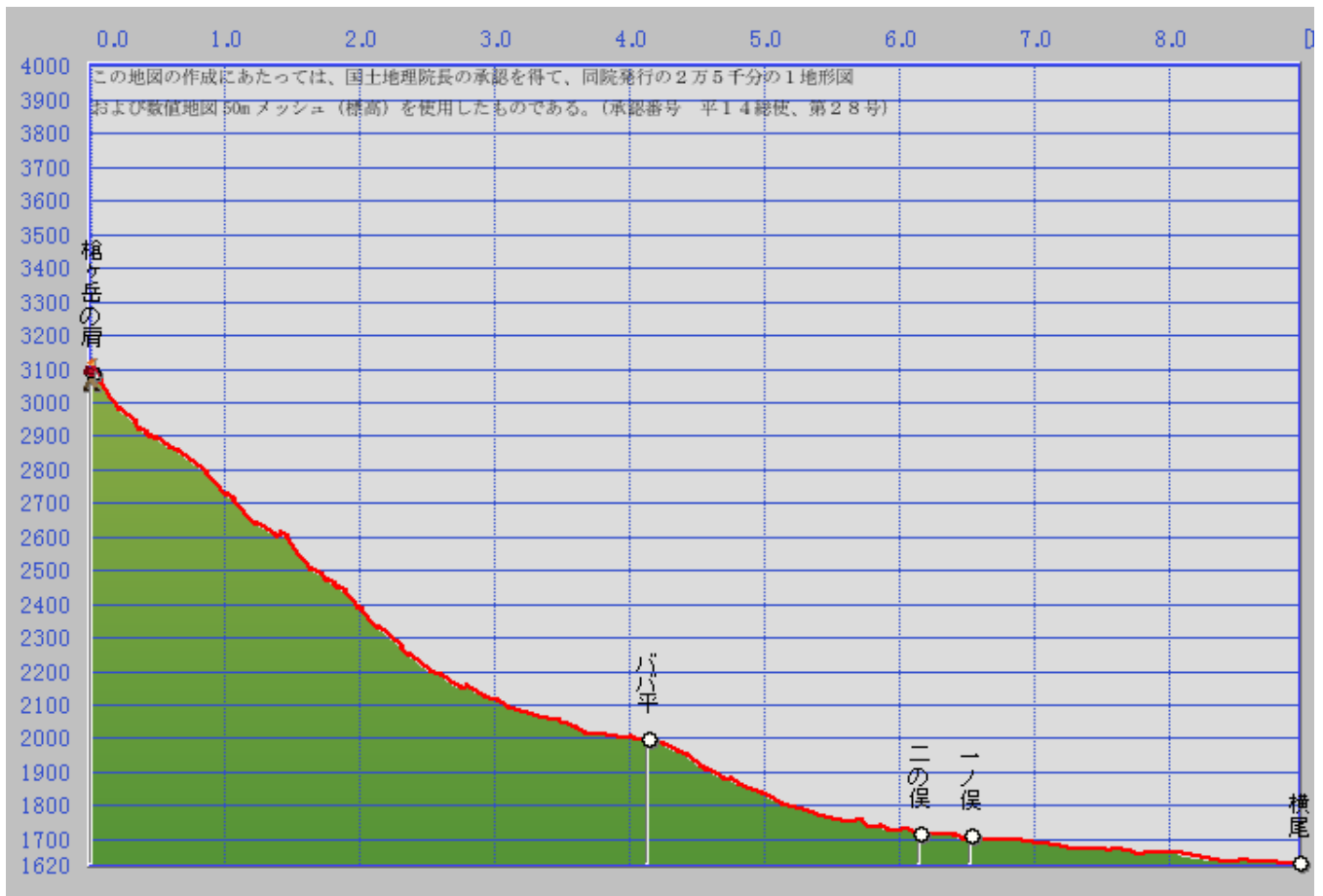
三俣山荘-双六池



双六池-槍ヶ岳



槍ヶ岳-横尾(1)



気象

概説

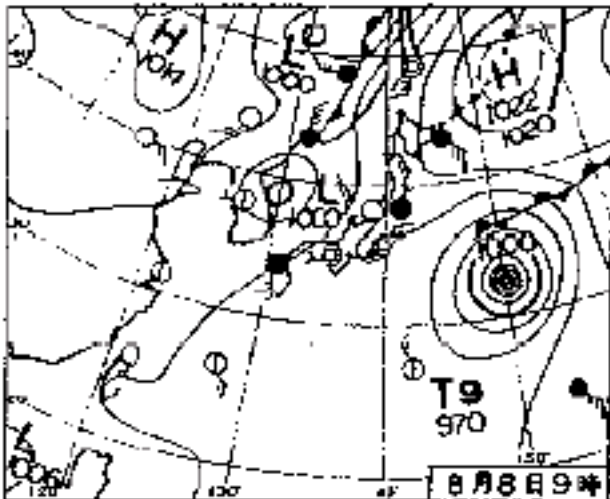
2001年8月の気象は「北冷西暑」であった。

(1) オホーツク海高気圧の影響で北海道から関東は涼しく低温に関する情報なども発令される。

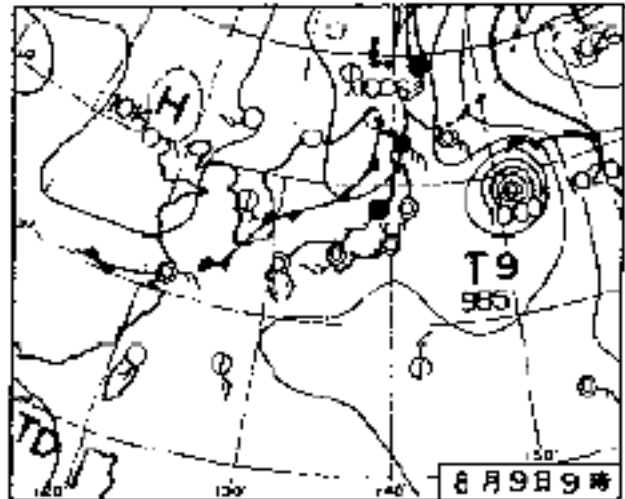
(2) 西日本は酷暑が続き熊本は06日までに35度超の酷暑日が16日間続く。

(3) 2年ぶりに台風が上陸、ゆっくりと東海・東北沖を北上。

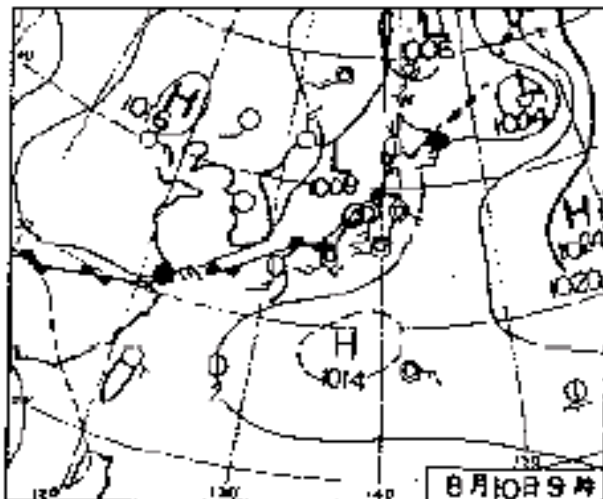
(4) アメリカ全土に熱波襲来。東部では39～40度と猛烈な暑さ。



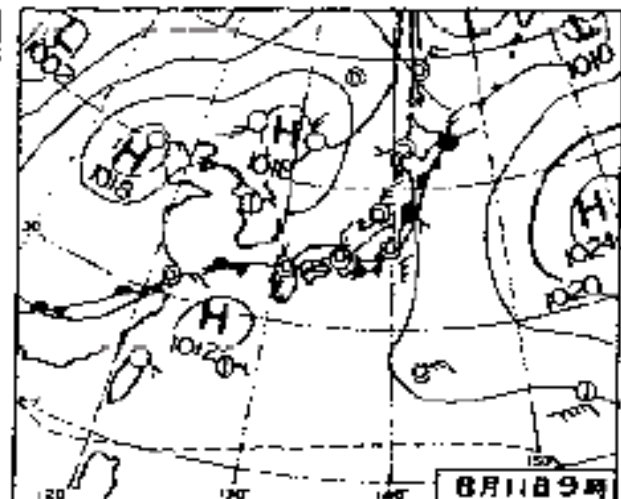
2001/08/08 9:00



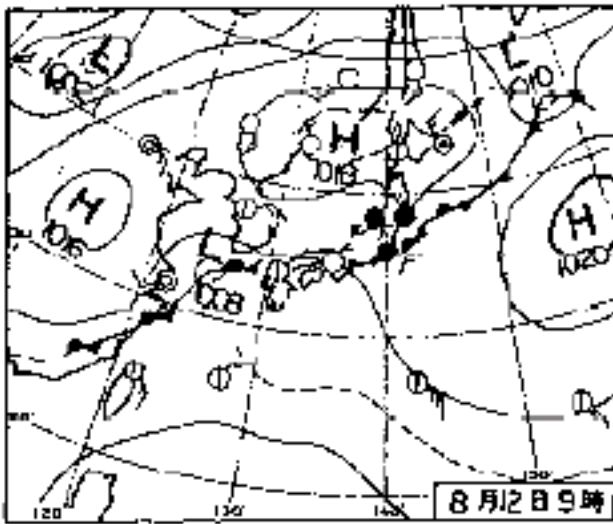
2001/08/09 9:00



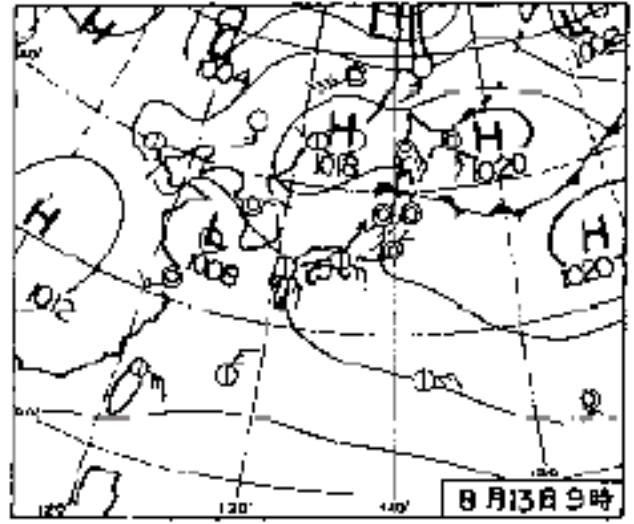
2001/08/10 9:00



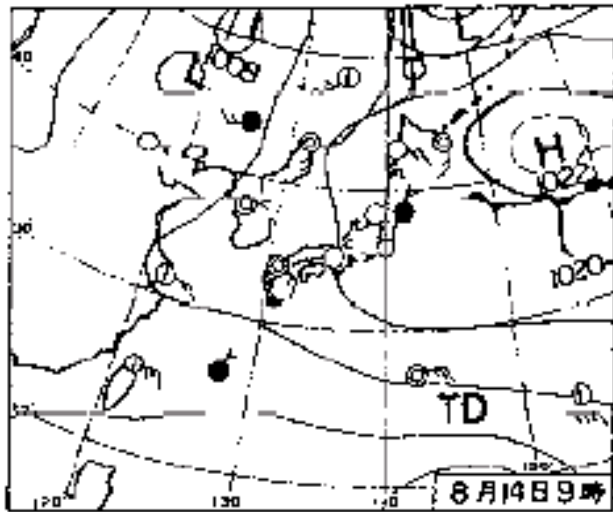
2001/08/11 9:00



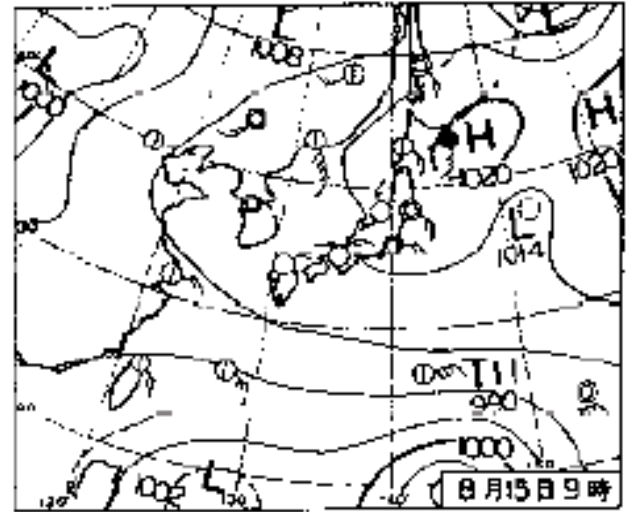
2001/08/12 9:00



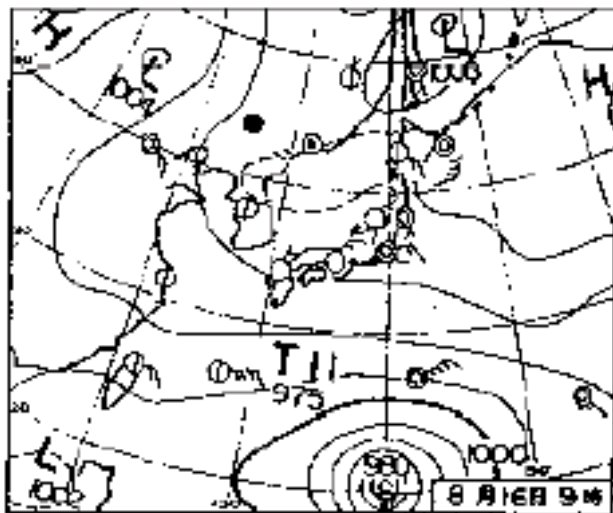
2001/08/13 9:00



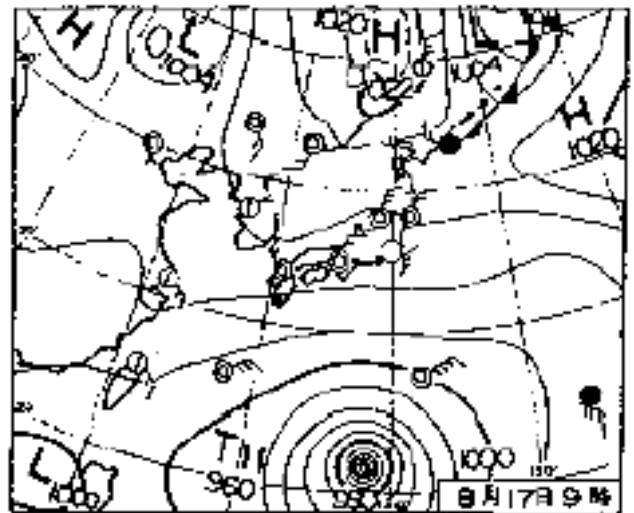
2001/08/14 9:00



2001/08/15 9:00



2001/08/16 9:00



2001/08/17 9:00